

日本共産党愛西市委員会は、東日本大震災を教訓に、愛西市の防災対策を充実するため「市民防災アンケート」を実施しています。「防災に関する用語がわからない」という声があることから、用語解説、資料をつくりました。参考にしてアンケートにご協力ください。

ハザードマップとは

自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したもの。

災害の被害程度や被害の拡大範囲なども示される。2000年の有珠山噴火の際に、ハザードマップにより避難した結果、人的被害はなかった。

愛西市のハザードマップ

○洪水ハザードマップ 河川が氾濫した場合の予想水位などが地図化されている。

○地震ハザードマップ 住宅の危険度やゆれの状況、液状化予測が地図で示されている。

○愛西市防災マップ 愛西市の避難所、公共施設などが載っている地図。

○徒歩帰宅支援マップ 交通機関が止まった場合、徒歩で歩いて帰る場合の地図。

*洪水ハザードマップは22年3月、地震ハザードマップは20年3月に作成し全戸に配布されている。

液状化（えきじょうか）とは

地震の際に地下水位が高い砂地地盤が、振動により液体状になる現象。比重の大きい構造物が埋もれたり、倒れたり、比重の軽いものが浮き上がったりする現象。阪神・東日本大震災でも家屋、上下水道、ガス、歩道や堤防などに被害が出ました。日本共産党愛西市議団は5月6日に被害が大きい千葉県浦安市を視察しました。



(写真は浦安市の傾いた住宅)

愛西市の液状化の予想

愛西市は、木曾三川の河口にあり、愛知県でも有数の液状化被害が予想される地域となっています。

防災同報無線とは

災害の場合、市民に災害情報などを早く伝え、避難ができるようにする防災同報無線は重要です。

愛西市には、

- ・屋外スピーカーと家庭に戸別に放送する佐織地区、
- ・屋外のスピーカーだけで放送する立田地区

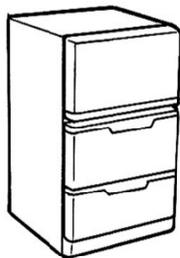
の2地区に防災同報無線がありますが、法律で佐織地区の戸別受信機は近く使えなくなります。愛西市は日本共産党の要求で、23年度予算に新しい防災同報無線設置の調査費を計上しました。



東海地震や風水害に備え一日も早い防災同報無線の整備が望まれます。

家具の固定

阪神大震災の死者の多くが、家具の転倒など屋内の事故でした。日本共産党は早くから実施を求めていましたが、愛西市は今年から「65歳以上の一人暮らし高齢者の家具の固定」助成を行っています。



日本共産党市会議員の連絡先

永井千年 24-3613 下村一郎 28-3868
真野和久 26-1465 加藤敏彦 28-3696

木造住宅の耐震改修助成

愛西市では昭和56年5月31日以前に建築された2階建て以下の木造住宅の無料耐震診断、耐震改修助成を行っています。

無料耐震診断 市役所に申し込む
耐震補改修補助 耐震診断の結果、評価点数が1.0以下だった住宅を1.0以上とする耐震改修工事。
補助額 上限80万円

○申込先 愛西市都市計画課 Tel 26-8111

愛西市の主な地点の標高

愛西市の中でも佐屋地区の地盤の標高は非常に低く、一番低い地点は、永和小学校の-2.5mです。佐屋地区では浸水被害が心配です。

八開庁舎前道路	3.8m	開治小学校グラウンド	2.0m
立田庁舎前道路	-0.4m	道の駅前道路	-0.4m
福原分校北道路	2.2m	西川端小グラウンド	1.0m
佐織庁舎前道路	0.0m	佐織総合グラウンド	1.0m
市役所	-1.3m	佐屋西小グラウンド	-0.7m
佐屋駅南道路	-0.8m	ピアゴ南道路	-1.7m
西保町釈迦堂前	0.4m	五ノ三駅北道路	-1.8m
富吉駅北道路	-2.0m	永和小グラウンド	-2.5m
名神団地道路	-1.9m	永和台南道路	-2.1m

※この標高は愛西市都市計画地図より下村一郎議員が写したものです。都市計画課は、20センチ前後の誤差があると言っています。